

道徳通信

～「ソーセージ」の悲しい最後～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和4年3月16日の授業

～～「人と自然がよりよい関係を築くためには、どんな考えが必要だろう」について考えました～～

雌のヒグマが、車の行き交う国立公園の近くに姿を現すようになります。その後すぐ、知床財団にとんでもない知らせが飛び込んできます。観光客が彼女にソーセージを投げ与えたのです。彼女にとって人や車は、食べ物を連想させる対象になり、人にどんどん慣れていってしまいました。人に慣れさせまいと財団は彼女を追い払い、厳しくお仕置きします。餌付けられたクマの人身事故の前例があるからです。しかし、彼女はのんきに出歩き続けます。そしてついに、市街地まで入り込むようになります。ある朝、彼女は小学校のそばでシカの死体を食べ始めます。人に出会ったら、何が起こるかわからない。決断の時。彼女は射殺されることになったのです。

観光客の身勝手な餌やりが原因で駆除されてしまったヒグマのエピソードを通して、人と自然が、よりよく関わっていくことについて、考えました。

◎ 「ソーセージ」を撃つ？撃たない？

撃つ	撃たない
●● ●●くん たった一匹でも放っておいてしまったらこどもたちが危険であるから。 ●● ●●さん 住民に被害が出て、誰かが怪我するかもしれないから。	●● ●●くん 殺したくないから。人に害するからと理不尽に命を奪われるのは可哀想だ。 ●● ●●さん クマを殺すことはかわいそう。麻酔銃で眠らせて山に帰す。

◎ 授業を振り返って…人と自然がよりよい関係を築くためには、どんな考えが必要だろう。

●● ●●くん

観光客の無責任な行動がなければ、くまは殺されずに済んだ。観光客は、知床財団の人が殺したと思っているだろうが、その原因は観光客だということを班で話し合った。ルールを守らないと誰かの命がなくなっていくことがわかった。

●● ●●くん

紙で読んだのと映像で見たものと全然違った。一人の人間の無責任な行動で自然の環境や生き物に被害を与えることがわかったのでしっかり責任をもって行動していきたいと思った。

●● ●●さん

かわいいからと言って、むやみに動物に近づかず、食べ物をあげない。動物や自然を守るためにその場所のルールをきちんと守る。自分達の無責任な行動で動物を苦しめることをしないように動物に対しての行動を改める。

●● ●●さん

熊が好きだからってむやみに近づくのはダメだと思った。動物のためにも無責任な行動をしないことが大事だと思った。また、自然のことをよく知ってから関わるのが大事だと思った。

●● ●●さん

悲しいことではあるけれど人間と動物が両方幸せに暮らすためには互いに恐怖心を抱くことが大切だと思った。また観光客のマナーに欠けた行動は今後の責任を持って公平に罰するべきだとも思った。まだまだ人間と自然が共存する未来は遠いけれどこれからも自分の立場をわきまえて過ごしていきたい。

●● ●●さん

自然に好き勝手入っていくのはいけないと思った。自然の環境に人が住ませてもらっていることを忘れない。自然をもっと知り、関わっていきたい。